謹啓

　師走の寒さ一人身に凍みる候となりましたが、貴台はじめ町村長の皆々様には愈々ご清祥成事と拝察申し上げます。

　この度の道州制に反旗を翻した全国町村長大会が盛大に開催されました事に心より敬意を表するものであります。
　小生も町議１６年議長４年町長４期１４年、ひたすら故郷の発展と住民福祉の向上に邁進して参りました。

　ところが、合併と共にとりわけ数多くの市町村合併により、人口も十万人を超える市となりました。
「合併して良かった。この地に生まれ、育って良かった町、いや市にしましょう」と声を大にして、当時の総理大臣になりかわって国家財政の危機を訴え、将来の子供達や孫達のために借金を残してはいけない等々、声を大にしてきました。しかし地域住民や職員は誰一人「合併したい」と言いましたか？
　将来の道州制を視野に入れた政府や国会議員の面々にまんまと乗せられ、取り返しのつかない「合併」に踏み込んでしまったのです。心の中では「合併反対・自らの町村長の生首を自らが切りたくない」という本音の気持ちを持ちながら、合併反対者を説得にまわり、合併推進、終わりには「調印」してしまった町村長の責任は、太平洋戦争に詔勅を発し捺印した昭和天皇の心境そのものであります。

　進むも地獄、退くも地獄、前門の虎後門の狼の現実に邁進した憐れな町村長、ＴＶ・新聞のインタビューに応えて「合併こそ将来の日本を救う」などと声高に物申し、推進派のレッテルを貼られ、今となっては福祉が切り捨てられ、中心部以外は哀れそのものであります。かっての町民の皆様や職員の皆様に申し訳のない懺悔の日々であります。
一，福祉ＮＯ．１の町が大後退
一，職員の信頼と意志の疎通の欠如
一，中心部の人材中心の人事
一，財政の硬直化

一，住民サービスの低下
枚挙に暇がない現実、米国、米国といいますが米国には小さなカントリーが一杯存在しますよ。

　真の民主主義・人民の人民による人民のための政治・天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず、等々とうらはらに政府の笛と太鼓に踊らされて合併してしまった町村が、再び元に戻られるような法案作成を全国町村長大会の決議として政府にもの申してほしいものです。山本重鎮会長の手腕に限りないご期待を申し上げるものであります。町村長、町村職員の数は激減したが、国会議員や県議会議員の数がなかなか改正されることのない現実これ如何に！？

　戦後の合併における中でも最悪の平成の大合併だったと思います。なんとしても、合併返上の実現と更なる町村合併につながる道州制には断固反対を示して、即行動に移されますことを希望します。

　会長様はじめ会員の皆様のご健祥を祈念いたします。

敬具

平成２０年１２月５日

石川県旧美川町長　竹内　信孝

全国町村会
　会長　山本文男様
　　　　　ご一同様